

●令和6年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「自然を守る税金」

【学校名・学年】関西学院中学部 2年

【氏名】大佛 花音

今年の六月頃、TVを見ていると「新たな税負担」というニュースを見ました。気になり調べてみると今年から新しく徴収される国税「森林環境税」のことだと分かりました。この税は一人年間千円徴収されます。対象となるのは約六二〇〇万人、つまり約六二〇億円が徴収されるということです。この税金は自治体ごとに住民税と合わせて徴収され、一旦国で集約した後に改めて各自治体に適した額が分配されます。

調べているとこれまでも「森林環境譲与税」という森林整備のために自治体に交付されていた税金があることが分かりました。これは国が持っているお金である国庫金から配布されていました。実際に静岡県浜松市ではこのお金を森林保全などに使っています。

しかし、森のない都市部では使い道がなく一部のお金を基金として積み立てているのです。そのため、森林の多い地域にもっと交付するべきだ、という意見も多く今年から基準が見直され、必要としている地域に多く交付されるようになりました。それでも交付額を決める際に人口も基準となっているため森林がない地域にも交付される現状は変わらないため無駄な税金だ、と否定的な意見も多くあるのです。この税金は森林を育てることで災害を防ぐことなどが目的です。一九七〇年頃で盛んだった日本の林業も今では衰退し、林業従事者も減少し、今大きな問題となっています。

私はこのニュースを見てそんな税金もあるのだと驚きました。私は今まで税金がどう使われているのかわかりませんが、思った以上に浅い知識だったのだと、気付かされました。森林環境税は森林のない都会の人にとっては理解しにくいもので、森林の多い地域の人にとっては身近な問題で住む地域によって理解に差があるのが問題なのだと思います。私の住む箕面市には「明治の森箕面国定公園」という場所があります。小さな頃から休日に散歩したりと自分の好きな場所です。そのような場所をより良く整備するために使われるのであれば良いことだと思います。ただ、この税金の使い道などをわかりやすく伝えていきみんなに理解してもらうことが大切だと思います。また必要な地域が使えるように交付の仕組みなどを改善していくことで否定的な意見の人の理解につながっていき、より良い制度になると私は思います。

今回この作文を書くことになって初めて税金について深く考えました。きっとこのような機会がなければ考えないような話だと思います。おかげで、自分が知っている以上に身近な場面でも税金が使われていることを知れました。これからは税金によって支えられている私達の生活により感謝していきたいです。